地域活動報告

本号では、横浜市・川崎市・相模
ます。また、コロナ禍での指導員
ので、御紹介します。

神奈川区青少年指導員実践型研修会

―――― 神奈川区青少年指導員協議会　編集部会長　佐藤　裕

青少年指導員を対象に、活動するうえで必要な知識や体験などを経験・吸収することを目的とした実践型研修会を開催しています。

近年はコロナ禍で開催を順延していましたが、今期は令和３年 12 月に三浦海岸でゴミ拾いを行いました。快晴に恵まれた冬の海岸は、一見きれいに見えましたが、指導員 39 名による２時間程の活動後には、57kg のゴミが集まり驚きました。なかでも海洋汚染で問題になっているプラスチック類が多く、小さく形を変えてマイクロプラスチックとして砂浜に混じっています。また、たばこのフィルターは、分解されずそのまま残っており、空き缶は埋められている有様です。一人ひとりの何気ない自然への甘えは、大きな環境破壊につながることでしょう。青少年指導員として活動することで、様々な気づきが得られます。体験を通して地域にフィードバックすることで、個人レベルからの意識改革に少しでも貢献できるようにこれからも取り組んでいきます。

●実践型研修会の様子

コロナ禍での大変だったこと･･･**「コロナ禍でのイベント実施検討と感染症対策」**

３密防止でパークゴルフ体験！

―――― 高津区青少年指導員連絡協議会　副会長　小野寺　善平

高津区青少年指導員連絡協議会は高津・橘の２地区の青少年指導員会で構成されています。

毎年実施している両地区合同研修会、今年はパークゴルフ体験会でした。コロナ禍で会議も含めて活動が制限される中で、こんな状況でもできることはないかと思案していたところ、密にならずにできることとして、区内にある多摩川緑地での活動はどうかとの提案が企画担当からありました。

行事企画委員会の皆さんで企画を具体化し、11 月 21 日（日）の研修会当日は天候にも恵まれて無事に開催することができました。１組４人の６チームでいざプレー開始。パークゴルフ場の御厚意で各チームにインストラクターをつけて頂きアドバイス頂きながらプレーができました。簡単そうに見えて、結構難しく奥が深いパークゴルフ、子ども達にその楽しさを伝えられるよう全力プレーで皆さんと盛り上がりました。

コロナ禍が落ち着いたら子ども達とプレーがしたいです。

●プレー終了後の集合写真

コロナ禍での大変だったこと･･･**「活動の場が減り指導員同士で会うことが難しくなったこと」**

地域のふれあいのためにできること

―――― 相模原市青少年指導委員連絡協議会　副会長　齊藤　一城

いま、青少年指導員として何ができるか・・・相模原市青少年指導委員連絡協議会ではこの困難な状況下、明日のために活動を続けています。

その一環として、子ども達とより楽しい体験をできるように、また自分達のスキルアップのために、地域ごとに研修会を開いており、先日は、市内南部のグループで「かんたん工作」の研修会が行われていました。

●研修会の様子

研修会の企画、準備も自分達で行います。何をやるかを検討し、内容が決まれば準備や試作を行い、研修会に備えます。今回は、ハロウィン風のランタン作り。市販の LED ランタンに紙粘土で肉付けし、目や口をくり抜いて色付けすれば、子どもでも簡単に楽しくハロウィンのランタンができちゃいます。

●完成したランタン

今は我慢の時ですが、ここでの経験が実践できる時を信じて頑張っています！

コロナ禍での大変だったこと･･･**「（青少年と接するのに）今までは３密を心がけていたのが真逆になりました」**

原市・横三地域・県央地域・湘南地域の活動について掲載してい
の活動で大変だったことについて、一言ずつ寄せていただきました

子どもデイキャンプ実施について

―――― 鎌倉市青少年指導員連絡協議会

鎌倉市青少年指導員連絡協議会として、新型コロナウイルス感染拡大の影響で自粛による制限を受けている子ども達に、自然の中で身体を動かすことのできる機会を提供すべく「え？キャンプに行かないの？」を企画しました。

●ネイチャーゲームの様子

●ディスクゴルフの様子

３密状態になることを避けるため、子ども達の集合時間に時差を設け、各自受付を済ませたのちにディスクゴルフとネイチャーゲームに分かれました。ディスクゴルフは、自作したディスクを赤、青、黄色それぞれのキャッチャーに目掛けて投げ、チーム毎の投数を競いました。また、ネイチャーゲームでは、鎌倉中央公園の地図と磁石を片手に、トレジャーカードに記された６つのミッションのクリアを目指し、ミッション達成の充足感をチームで味わっていました。持参したお弁当を食べたのち、ディスクゴルフ班とネイチャーゲーム班を入れ替えて楽しみました。

全てのゲーム終了後、少々レクリエーションを楽しみ、最後に各チームの成績発表をする表彰式を行いました。今後の状況下においても、どのように子ども達に喜んでもらえるイベントを開催するかについて模索を続けてまいります。

コロナ禍での大変だったこと･･･**「安全基準がわからず実施判断が困難でした」**

子どもたちを中心に地域をつなぐ

―――― 愛川町青少年指導員連絡協議会　　会長　吉田　寿

愛川町の青少年指導員は 22 名で、地域の青少年健全育成を進めるパイプ役として、オール愛川体制で活動しています。コロナ禍においても、今できることを考え、感染予防対策を講じ、主催事業の実施、町事業への協力、他団体との連携等に取り組んでいます。

６月の青少年健全育成者研修会では、青少年育成に関わる方々とともに、３部入れ替え制で､①アイスブレイキング＆ネイチャーゲーム､②バルーンアート､③火おこしを学びました。地域の活動で生かせる指導技術の向上を図るとともに、横のつながりを確かめることができました。

●「ジュニアフェスティバルあいかわこどものまち」の様子

また、ジュニアリーダーの育成にも力を入れています。ジュニアリーダーが企画運営するイベントとして、７月に「ふれあいの村で遊ぼう」、11 月に「ジュニアフェスティバルあいかわこどものまち」を実施し、生き生きと活躍する姿を見ることができました。今後も地域の皆さんと協力して、子ども達の健やかな成長を支えてまいります。

コロナ禍での大変だったこと･･･**「つながりを保ちたい一方で活動方法に悩みました」**

コロナ禍でのイベント事業

―――― 伊勢原市青少年指導員連絡協議会　　副会長　亀井　道行

伊勢原市青少年指導員連絡協議会は、現在 98 名が集まり、体験学習や工作教室の開催、地域パトロールといった活動を行っています。

しかし、感染症拡大に伴い、様々な活動やイベントを行えない状況が続きました。

当協議会では、コロナ禍においてできることを検討した結果、「おうちで工作」と題し、工作の説明書と材料をセットにした、工作キットを配布し、自宅で工作を楽しんでもらうことにしました。

●クルリンの簡単ランタン

これには予想を大きく上回る反響があり、令和３年３月に「クルリン（※）のおめん」、８月に「クルリンの簡単ランタン」、10 月には「ハロウィン簡単ランタン」キットを、計 445 個、届けることができました。

本来であれば、直接子どもたちの笑顔が見たいところではありましたが、自由な発想で完成させた子ども達の作品の投稿写真を見るたび、工夫して事業を開催してよかったと感じました。

今後も事業を工夫して、地域と親子のつながりづくりを進めてまいりたいと思います。

※クルリン…伊勢原市公式イメージキャラクター

コロナ禍での大変だったこと･･･**「青少年と指導員双方の安全対策を図れる事業を計画すること」**